

がん患者のアピアランスケア(※)支援への考えは

制度の仕組みや対象者数などについて調査し、検討していく



辻 史子

公明党田原市議員



带状疱疹ワクチンについて

- 問** ワクチン接種の費用助成についての考えは。
- 答** 対象者が50歳以上の希望者と幅広く、不活化ワクチンの場合は費用も高額となるため、市民ニーズの確認や、近隣の先進自治体の制度などを調査・研究していく必要があるものと考えている。

がん患者のアピアランスケア支援について

- 問** ウィッグや医療用補整下着などは健康保険の対象外で、数万円から数十万円かかる。がんになっても社会で活躍できるように支援が必要である。がん患者のアピアランスケア支援への考えは。
- 答** がん治療による外見の変化は、社会生活を送る上で、苦痛を感じることが予想される。今後、制度の仕組みや対象者数などについて調査し、検討していきたい。

※ アピアランスケア
がん治療による外見の変化に対し、患者の苦痛を軽減するケア。単に変化前の外見に戻すのではなく、自分らしく生きられるよう、サポートをすること

保育施設・小中学校手洗い場の自動水栓化について

- 問** 感染症対策を踏まえ、今後の保育施設や小中学校の施設における手洗い場の自動水栓などの整備の考え方は。
- 答** 屋内トイレに加え、他の手洗い場についても設置場所や利用用途等を考慮し、自動水栓やプッシュ式・レバー式なども採用し、施設の大規模改修や様々な修繕機会を通じ、必要な整備を進めていく。

デジタル弱者への取り組みについて

- 問** 高齢者がデジタル化の恩恵にあやかり、自らの幸福度を高める活動の支援が必要である。スマホ教室などが行われているが、デジタル活用支援の今後の展開は。
- 答** 地域開催の取組を活性化するとともに、県の高齢者デジタルサポーター事業研修を終了したボランティアの協力も得て、興味を持ってもらえる内容をテーマに教室などを開催し、高齢者のデジタル活用の機会、きっかけづくりに取り組んでいく。

- 問** 地域コミュニティごとに作成された「まちづくり推進計画」の策定効果は。
- 答** 継続して課題に対応するには、新たに地域コミュニティの役員になられた方に地域の課題やその対策が引き継がれる仕組みが必要で、計画を策定する効果は高いと考えている。また、全コミュニティ協議会で策定されたため、それぞれの課題や取り組み内容が分かり、同じ課題を持つ他の地域の参考にもなっている。

- 問** 市と地域コミュニティは、どのようなことに取り組んできたか。
- 答** 条例による地域コミュニティの位置付けの明確化、市民館の整備、市職員のアドバイザー派遣、補助金やまちづくり推進計画策定の支援など、地域要望に配慮しながら活動支援に取り組んできた。また、地域側は地域コミュニティ連合会が発足し、全コミュニティの連携体制が構築された。研究会など共通課題の解決に向けての対応や地域要望書の取りまとめなど、継続的に取り組んでいる。

地域コミュニティによるまちづくりについて

住みよいまちづくりを実現するための今後の展開は

「活動目的・目標の共有」「全員参加」「連帯意識づくり」の実現を念頭に取り組む



村上 誠

自由民主党田原市議員

